

大気浮遊じんの放射能濃度測定結果

問合せ 生活環境課 ☎24-5231

ちりやほこりに付着した放射性物質の飛散状況を調べるため、市内10地点で収集した大気1m³あたりの放射性物質の濃度を測定しました。

測定地点		放射能濃度 (mBq/m ³)		
		5/15-22	5/22-29	
小高区	川房公会堂 (川房)	セシウム134	0.016	0.047
		セシウム137	0.150	0.760
	金房小学校 (飯崎)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.077	0.080
	塚原公会堂 (塚原)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.038	0.070
原町区	横川ダム (馬場)	セシウム134	0.012	不検出
		セシウム137	0.150	0.170
	原町保健センター (小川町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.067	0.063
	高平生涯学習センター (下高平)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.054	0.082
	市立総合病院 (高見町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.045	0.110
	大原公会堂 (大原)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.093	0.110

測定地点		放射能濃度 (mBq/m ³)		
		5/15-22	5/22-29	
鹿島区	鹿島区役所 (西町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.054	0.068
	鹿島区3-3消防屯所 (南海老)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.018	0.031

※検出限界値はおおむね0.02~0.03mBq/m³の範囲にありますが、測定サンプル毎に変動します。そのため、データの記載がない日は、放射能濃度が検出限界値未満の値であり「放射能不検出」と判定されます。

● 渡邊正己京都大学名誉教授
(市放射線健康対策委員会委員長)による解説●

第110回目
大気浮遊じん放射能測定結果の解説
(2018年5月15日~2019年5月29日)

今回観測されたセシウム137濃度は、平均0.11mBq/m³で健康影響を心配することはありません。ところで、原子力とは何でしょうか？これを知ると放射線のことをもっと理解できるようになると思います。原子は、陽子と中性子と電子の三つが材料でできています。陽子と中性子は、結合して原子核を形成し、原子核の周辺を電子が飛び回っています。不思議なことは、プラスの電気を持つ陽子が電氣的に中性の中性子と原子核という塊を作り続けることができることです。この原子核を一つにまとめるために働いている力を核力といい、この力こそが原子力の源です。